

Bulk Forming

(一社) 日本塑性加工学会 鍛造分科会ニュース No. 69 2025 年 10 月

分科会行事開催報告・予定

1. 行事開催報告

各行事の講演プログラムは分科会 HP (<http://www.jstp.or.jp/commit/forging/index.html>) 等にてご確認ください。

1.1 総会・最優秀鍛造技術者賞贈賞式・第 117 回研究集会・研究班集会（2025 年 5 月 26,27 日，名古屋市）

5/26 午後に研究班集会，5/27 午前に総会・最優秀鍛造技術者賞贈賞式，研究集会を名古屋工業大学 4 号館にて対面開催した。今回の参加者数は 50 名程度であり，新型コロナウイルス感染症前の参加者数に近づいた。

研究班集会の前半（2 時間）は鍛造知能化研究班と鍛造材料研究班合同集会であり，3 件の講演発表があった。後半（2 時間）の鍛造技術温故知新研究班では小坂田宏造先生より研究班の方針，今後の予定および小坂田先生の研究の講演があった。

5/27 午前の総会では，2024 年度の事業・会計報告および 2025 年度の事業・会計計画が承認された。総会後の 2025 年度最優秀鍛造技術者の贈賞式では，受賞者の新日鐵住金(株)(業績時)・戸田正弘様への最優秀鍛造技術者賞贈賞式の後に受賞記念講演が行われた（写真 1,2）。その後の研究集会では「熱間鍛造部品の高品質化技術動向」を主題として，大同特殊鋼(株)・山崎様から「熱間鍛造用鋼の活用技術動向」，(株)MORESCO・浜島様から「熱間鍛造用白色系潤滑剤の技術開発」，日産自動車(株)・中村様から「クランク鍛造ラインにおける IoT を活用した粗材品質向上活動」と題した講演をいただき，活発な討議が行われた。5/27 午後の工場見学は，参加者 40 名が集合時間の 5 分前に揃い，道路も空いていたため，30 分早く大同特殊鋼(株)知多工場に到着して進行した。残念ながら雨が降る中での工場見学となったが，盛んな質疑応答が行われた。大きなトラブルもなく終了することができ，各講演者および参加者のご協力に感謝を申し上げる。



写真 1 最優秀鍛造技術者贈賞式の様子
(左：受賞者の戸田氏，右：松本主査)



写真 2 受賞講演の様子

(文責：中日本地区運営委員)

1.2 第 265 回塑性加工技術セミナー「鍛造入門セミナー（演習付き）」（2025 年 6 月 16,17 日，名古屋市中）

今年度は名古屋工業大学にて対面形式で行われた（写真 3）．昨年度と同様の「鍛造入門セミナー（演習付き）」と題して，「生産加工と鍛造」，「鍛造の力学」，「冷間鍛造」，「熱間鍛造」の講義と演習を中心とした初心者に役立つことを意識した構成とした．参加者は 53 名であり，昨年度の 56 名，一昨年度の 53 名と同等水準であった．

セミナー後のアンケート結果では「内容に満足」との回答が 77%以上を占め，参加者の満足度は高かったことが確認できた．参加者から「わかりやすかった」といったポジティブな意見をいただいている一方，「質問時間を長く設定して欲しい」，「計算方法等が分からない前提で講義してほしい」などの指摘もいただいているため，次回のセミナーに向けて改善を図っていきたい．そして，テキストの受け取りができず初日に届かないトラブルがあった．月曜日に開催したため，再配達のための時間的余裕が取れなかったことがリスクとして取り上げられた．今後の企画に参考にしていきたい．



写真 3 鍛造入門セミナーの様子

（文責：金 秀英（ヤマナカゴーキン））

1.3 第 190 回塑性加工学講座「鍛造加工の基礎と応用」（2025 年 7 月 29,30 日，東京都港区）

2025 年度は，東京の機械振興会館の研修室において対面形式にて開催した（写真 4）．2012～2024 年度は 12 月に開催していたが，本部企画案件の開催時期配分を考慮して今年度は 7 月開催となった．講義内容は昨年度と同様，2 日間で 8 講義を企画した．「鍛造金型用鋼材と表面処理」と「鍛圧機械」の講義については，今年度に限って講師を変更して対応した．参加者は 15 名であり，昨年度の 37 名と比べて大幅に減少する結果となった．7 月開催となったことで，6 月に開催した基礎セミナーと開催時期が近かったこと，そして東京地区での開催（2022 年度の東京開催のときも 15 名であった）も影響していると考えられる．

アンケートの結果によると，講座の内容に関して 83%の参加者から満足（4 点以上）の回答をいただいている．会場については 67%が満足しているが，「地下ではなく地上の方が良かった」という意見もいただいている．「動画を活用して最新の鍛圧機械や金型を紹介してほしい」，「質問するタイミングが取りにくい」といった指摘をいただいたので，今後の改善・検討点とする．



写真 4 講座の様子

(文責：金 秀英 (ヤマナカゴーキン))

1.4 第 76 回塑性加工連合講演会テーマセッション「素形材産業の発展と競争力向上を目指す鍛造技術」(2025 年 9 月 24,25 日, 水戸市)

第 76 回塑性加工連合講演会にて鍛造分科会の企画によりテーマセッション「素形材産業の発展と競争力向上を目指す鍛造技術」が開催された。講演件数は 5 件（一般セッションでの鍛造の講演は 8 件）であり，例年のテーマセッションと比較して講演件数が少なかった。これは開催時期が今年度から 9 月に移行し，5 月の塑性加工春季講演会からの期間が短かったことが主因と考えられる。講演内容は金型，工法，割れ発生予測であり，当日は聴講者も多く，活発な質疑応答となった。

最後に，講演発表，聴講いただいた方々にはこの場を借りて御礼申し上げる。また来年度の第 77 回塑性加工連合講演会においても鍛造分科会からテーマセッションを企画するので，テーマ案があれば一報いただきたい。また数多くの講演発表をお願いしたい。

(文責：松本 良 (大阪大学))

2. 2026 年精密塑性加工国際学術賞推薦のお願い

日本塑性加工学会の精密鍛造国際学術賞（第 1～10 回）がこの度，精密塑性加工国際学術賞と改称し，2026 年（第 11 回）の候補者を募集することになりました。本賞は精密鍛造，精密塑性加工の分野で国際的に優れた業績をあげた研究者・技術者を 3 年毎に顕彰するものです。

本賞の顕彰および付帯事業である国際精密鍛造セミナーについて，鍛造分科会が深く関わっておりますので，本賞についてご周知いただき，多数のご推薦をお願い致します。

応募要領：<http://www.jstp.jp/en/award/precisionforming/>

応募〆切：2026 年 5 月 1 日（金）

応募先：日本塑性加工学会事務局長（E-mail: imura@jstp.or.jp）

結果発表：2026 年 7 月 31 日（金）予定

表彰式：2026 年 10 月 11～16 日，第 15 回塑性加工国際会議（15th ICTP）会場（大

韓民国，済州島)

3. 行事開催予定

現時点での予定ですので，最新情報は分科会 HP (<http://www.jstp.or.jp/commit/forging/index.html>) 等にてご確認ください．

- ・ 2025 年 10 月 27,28 日 第 118 回研究集会・研究班集会（倉敷市，南日本地区（中国・四国））
- ・ 2026 年 2 月 4,5 日 第 53 回実務講座（西日本地区）
- ・ 2026 年 5～6 月 総会・最優秀鍛造技術者賞贈賞式・第 119 回研究集会・研究班集会（東日本地区）
- ・ 2026 年秋 第 120 回研究集会・研究班集会（北日本地区）

（分科会以外：詳細は各主催の HP 等にてご確認ください）

- ・ 2026 年 1 月 20 日 第 363 回塑性加工シンポジウム「大変革を進める自動車産業に対応するプレス・鍛造技術」（名古屋市）（実行：鍛造分科会）
- ・ 2026 年 3 月 18～20 日 2026 年塑性加工春季講演会（浜松市）

会報「Bulk Forming」バックナンバー：<http://www.jstp.or.jp/commit/forging/bulkforming.html>

お願い：Bulk Forming No.23（1995～96 年発行）を探しております．もしお持ちの方がおられましたら，主査・松本（ryo@mat.eng.osaka-u.ac.jp）までご一報ください．

会報「Bulk Forming」への原稿募集

Bulk Forming への寄稿を随時，受け付けておりますので，ご協力，よろしくお願い申し上げます．